

## — あおぞら —

### 学生・若手研究者の論文特集に寄せて

大気環境学会編集委員会  
学生・若手論文審査委員会 委員長  
中 嶋 吉 弘

2014年の最初となる本号と次号にかけて、『学生・若手研究者を対象とした論文特集』を今年も実施することとなりました。本特集の趣旨は大気環境研究分野に携わる学生および若手研究者の研究成果を発表する場を提供するとともに、次世代の大気環境研究を担う若手研究者を育成すること、さらに学生および若手研究者の積極的な論文投稿により大気環境学の活性化を図ることにあります。大学の研究室、国または地方、企業等の研究機関に従事されている学生および若手研究者の中には、成果があるにもかかわらず学術論文の作成経験が乏しい方々が多いと思われる。本特集にチャレンジしていただき、論文の作成と担当編集委員とのやりとりを通して、論文の作成と研究成果の公表方法を習熟していただき、更なる研究活動の発展と積極的な論文投稿へと繋がっていくことを期待いたします。また中堅やベテランの域に達せられた研究者の方々にも、内容が少々荒削りであっても、研究内容の新規性または研究成果の今後の発展性を感じていただければなお幸いです。

本特集では編集委員会内部で、学生・若手論文審査委員会を設置し、投稿された論文を1ヶ月以内で迅速に審査することで短期間での論文掲載を行うようにいたしました。これは学位申請などの機会に論文を投稿される学生、研究成果報告書等を作成する若手研究者などを想定しています。一般の投稿論文よりも迅速な審査を行って参りましたが、論文内容の審査については大気環境学会誌への掲載に相応しい内容になるよう

に心がけて参りました。同時に一般の投稿論文よりも『新規性』、『発展性』、『独創性』を大切にするように審査委員の方々には心がけていただきました。本特集に携わっていただきました審査委員の方々には、後多忙の中をご協力いただき誠にありがとうございました。

本年度も多くの学生および若手研究者からの投稿が寄せられ、本号では7報の論文(原著6報、ノート1報)を掲載いたしました。また次号では3報の論文を掲載予定です。投稿された論文には、オキシダントによる植物影響や越境大気汚染の起源推定、新規のオキシダント評価法、汚染物質の沈着に関する新たな概念の導入とその検証、放射性物質の沈着と動態解明、微量成分の測定と起源推定など大気環境研究分野が有する広大な研究分野を代表した内容となっております。

本特集を通読していただき、学生からベテランの研究者に至るまで、大気環境研究における刺激を受けることができましたら、審査委員長として本特集の意図が達成できたと嬉しく思います。本特集号にはご参加いただけなかった次代の学生もしくは若手研究者の方々には、本特集を通してご自身の研究成果の素晴らしさを今一度確認していただき、次年度以降の発表への励みとなっていただければと思います。また中堅、ベテランの研究者の方々にはご自身の研究手法の新しいアイデアとしての手助けとなり、後進のご指導の一助となればより幸いと思います。次年度以降も本特集は継続いたしますので、是非多くの学生および若手研究者の方々からの投稿を期待いたします。